



消防小隊



体験喫食

「夏休み一番の思い出」 学生が浜松基地を見学

自衛隊静岡地方協力本部浜松出張所（所長・有吉将人（一等空尉））は8月15日（木）、航空自衛隊浜松基地（浜松市）で行われたシグマ・ライセンス・スクール（同市）の基地見学に協力した。

自衛官の仕事に興味のある学生4人と教員1人が参加し、まず基地の入り口を守る警備小隊を見学した。隊員から、腕を掴まれた際に使える簡単な護身術を教わり、学生たちはその動きを忘れまいと基地内の移動中などに何度も反復練習をしていた。

次に会議室で航空自衛隊の全般説明を聞いた後、消防小隊を見学した。防火服の着衣体験をした学生は「思ったよりも硬くて分厚い。重し暑くて大変で」と感想を話していた。また、破壊機救難消防車と放水展示の見学では、普段目にするのではない迫力に「最初はびっくりしたが、こんなに大きな消防車の訓練を間近で見られて大興奮だった」と嬉しそうに話していた。

見学の最後は隊員食堂での体験喫食で、広い食堂で食べる山盛りのミートスパゲティに大喜びしていた。短い時間だったものの、学生たちの心には強く印象に残ったようで「夏休み中の一番良い思い出になった。また見学に来て、今度は別のところも見てみたい」と笑顔で話していた。

浜松所は、今後も基地見学を通じて自衛隊の認知度向上を図り、学生たちの幅広い視野の育成に寄与していく。

令和6年度静岡県総合防災訓練に参加 関係機関との連携を強化



災害対策本部



西部方面本部

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久（等陸佐））は8月22日（木）、静岡県庁（静岡市）等で行われた令和6年度静岡県総合防災訓練の本部運営訓練に参加した。

今回の訓練は南海トラフ沿いで巨大地震が発生し県内で最大震度7を観測、発災後24時間が経過した想定で行われた。

静岡地本は県庁に開設された災害対策本部や県内に4カ所ある方面本部に隊員を派遣し、災害応急対策活動を円滑に実施するための情報収集、各機関や部隊との情報共有、活動調整の手順などについて確認した。

また、今年1月の能登半島地震において道路寸断や孤立集落が発生したことから、道路啓開やドローンの活用、空路・海路による人員・物資輸送なども検討され、陸海空自衛隊がそれぞれの任務の円滑化や連携強化に努めた。

今回地本連絡員として訓練に参加した隊員は「災害発生時に調整が必要となる各関係機関の担当者との顔を突き合わせて流れを確認できたことは大きな成果と感じた。また、災害対応に自衛隊だけでなく多くの機関等が連携して臨むことの大切さを実感した。今回の経験をほかの隊員にも伝え、今後に生かしていきたい」と語った。

静岡地本は、今後も国民を守るべく県や自治体と連携し災害に備えていく。

子どもふれあいイベントで自衛隊の活動を発信



子どもふれあいイベントで 自衛隊の活動を発信



自衛隊静岡地方協力本部三島募集案内所（所長・林正士（一等陸尉））は8月25日（日）、三嶋大社（三島市）で開催された「街中だがりや楽校in三嶋大社・糸びす参道」に参加し、広報活動を行った。

このイベントは、かつて駄菓子屋が持っていた「子どもとのふれあい」を通じた教育力を復活させ、子どもたちに体験・活動の場をつくるもの。三島市自衛官募集相談員の古長谷稔氏の協力により三島所も昨年度から参加している。

静岡地本は陸上自衛隊第34普通科連隊（御殿場市）や三島市自衛隊協力会、自衛官募集相談員とともに広報活動を行い、多くの親子連れが自衛隊ブースを訪れた。

軽装甲機動車や偵察用オートバイといった自衛隊車両に子どもたちは目を輝かせ、バイクに跨ったり車両の上に乗って記念撮影をしたりと、自衛隊とのふれあいを楽しんでいた。

また、同連隊が所在する板妻駐屯地のキャラクター「イタツマン」も登場し、広報ブースや会場内を巡回して子どもたちの人気を集めた。

三島所は、引き続き地域のイベントに参加して子供から大人まで幅広い年齢層に自衛隊の魅力を発信し、ファンを獲得していく。